慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	明治維新史研究を讀む(二)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.4 (1929. 12) ,p.98(606)- 98(606)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291200-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治維新史研究を讀む（二）

五五四頁（其餘の者は擒の木坂下屋敷に纒めて拘致した）は誤りなり
擒の木坂下の邸は新徴組と命名し酒井家へ御委任と共に賜つて後來一同を扶助する目的であつたのである

五五七頁（山田一郎已下はその尤なるもので）云々は誤り
因に云ふ山田一郎は佐川村上石坂等が亡命せし後は牛耳を握つて居つたが頗る不品行で日夜花柳の巷に沈溺したるが幕府より着込鉢金買上げ代金として參千圓下付せられたものを遊蕩費に濫費し夫故に脱走して筑波山の暴徒に投じた草野剛三もまた脱走して筑波山に投じたのは事實である
中村常右衞門羽賀軍太郎の兩人は別册に記述する神田明神前事件の關係者で暴行抔はせぬのである
天野靜一郎は莊内へ下りたるの一人である

同頁千葉鶴太郎は雄太郎の誤り

同頁石川又四郎の家臣は組の誤り

同頁騎馬の士は小普請組永島直之丞である。

○四　大　砲　組

新整隊の前身大砲組は砲術指南浪人小林登之助が門人を集めて一團をなし報國の名を整ひ幕府致仕せんと欲し種々なる運動を試みつゝあつたが幕閣に於て處置には困却の餘り新徴組同樣莊内藩へ附屬せしめたが莊内藩は小林登之助が長藩士と通じ企策するあるを看破し新徴組と同視する能はず頗る警戒したものである登之助も野心勃々として莊内藩の拘束を免がれんとしつゝあつた然りと雖ども莊内藩は一旦附屬せられし上は恩威を以て新徴組同樣に取扱忠勤を勵さんと努力し慶應二年の末飯田町なる火消屋敷を幕府に申請して大砲組の邸となし新徴と同じく妻子を同棲せしむるに至つた是より曩小林登之助は神田の自宅に於て暗殺せられ後ち隊士は追々庄内藩の取扱に服從し新徴組に先立ち莊内藩の家來たる事を申渡されたのである
因に云ふ小林登之助の暗殺は彼が江戸の狀況幕閣の祕密を長藩に通じたるの證跡顯然たるより斬殺したのであるが當時公然とするを憚る所あつて暗殺したるものならん
明治元年の此大砲組は莊内へ下り新整隊と改稱し戊辰の役には秋田方面へ出兵し明治五年廢藩其爾後新徴組と同時に瓦解し四方に離散し了つた　舊新徴組　八十三翁　鶴鳴千葉彌一郎述